

討 論

◎請願第1号・白川中学校の
存続に関する請願

定例会最終日(6月22日)
に行われた討論の主な内容は
次のとおりです。

反 対

松野 久郎

地域としての思いは、一定
の理解はしている。また、請
願者代表ほか1千343名の署名
は重く受け止めている。

しかし、白石市小中学校の
在り方検討委員会の答申を受
け、教育委員会では、学校が
地域の核であることは十分に
考慮しながらも、最も大切な
のは、「児童生徒の教育のため
にどのような学校が最適で
あるか」という前提に検討を
重ねた結果の方針であり、子
どもの教育を重視していると
考える。

小規模校のメリットは確か
にある。しかし、子どもの成
長過程では、必要な多くの人

との関わりあいや集団生活、
複式学級等による授業の質の
低下への懸念など、子どもた
ちが、将来、グローバル化し
た社会への対応等を考えると、
教育の場をしっかりと確保す
ることが大切である。

賛 成

伊藤 勝美

児童生徒の教育を考慮し、
最優先にすることを望むこと
から、この請願の採択に反対
する。

地域コミュニティの核とし
ての性格を持つことが多い学
校の統廃合の判断は、教育的
観点だけでなく、白川地域の
さまざまな事情を総合的に考
慮して検討する必要がある。
それだけ、統廃合が白川地
域で、デリケートで多くの重
要な課題を含むため、今回の
請願となったのではないかと
子どもたちの多くは、今の
学校で満足しており、きめ細
やかな先生の指導のもと、地
域行事への積極的な参加など、
社会性も身につくと同時に、
地域に溶け込んでいる。

子どもの資質や能力は、多
くの人と関わりやさまざまな
経験を重ねる中で育まれるも
のであり、学校だけで育成で
きるものではない。保護者・
地域住民が支えることで成り
立っているのではないかと。

また、文部科学省の統廃合
の手引きでは、小規模校のメ
リットを最大限生かす方策や、
小規模校のデメリットの緩和
策や代替策を積極的に検討・
実施する必要があると示して
いる。この手引きを参考にす
れば、小規模である白川中学
校の存続が可能ではないかと
も考えられる。

教育委員会は、この手引き
で示す具体策を作成し、保護
者や地域住民との丁寧な議論
を積み重ねる必要があると考
える。

教育委員会は、今回の請願
を真摯に受けとめ、統廃合の
方針をいったん白紙に戻し、
再度、白川地区住民との話し
合いの場を設けて、時間をか
けてでも、相互理解に努める
べきではないかと考える。
以上の理由からこの請願の
採択に賛成する。

反 対

佐藤 秀行

小さな学校には、小さな学
校なりの良さもあると考える。
また学校は、地域の拠点とい
う大きな役割もあると同時に、
学校は本来、生徒のための学
校であるということが根本に
ある。

小規模中学校の教育環境の
現状は、いろいろな考えや意
見を出し合い、互いに学びあ
う側面が弱い部分もある。
さらに学習環境は、教科の
指導などで人数が少ないため、
集団活動が図りにくい面もあ
る。部活動や合唱などは、集
団活動だからこそ、より教育
的意義が高く、心も育ち、そ
こに感動も生まれていくもの
である。

そのため、教育活動を行う
うえで、最低の人数は必要で
あると考える。

子どもたちの教育効果や学
習環境等について、現在、教
育委員会が進めていこうとし
ている方向性に賛同するもの
であり、この請願の採択に反
対する。

第420回 市議会定例会

意見が分かれた議案の賛否一覧

議員氏名	議決結果																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
件名	佐藤 龍彦	保科善一郎	伊藤 勝美	澁谷 政義	沼倉 啓介	平間 知一	管野 恭子	佐久間儀郎	大野 栄光	大町 栄信	四竈 英夫	小川 正人	佐藤 聡一	佐藤 秀行	山田 裕一	松野 久郎	山谷 清	志村新一郎
請願第1号 白川中学校の存続に関する請願	不採択	○	○	○	×	○	○	×	議	○	×	×	×	×	×	×	×	×

※「○」⇒賛成した議員、「×」⇒反対した議員、「欠」⇒欠席した議員、「議」⇒議長のため表決に加わらない